

「トリ」は三、「ターマ」は多摩からの造語。三多摩地域への想いを込めて。

【編集】東京都公民館連絡協議会研修担当 【発行】東京都公民館連絡協議会
 国立市公民館 ☎042-572-5141 町田市生涯学習センター ☎042-728-0071

2017/3
 第28号

東京都公民館研究大会を終えて

東京都公民館連絡協議会会長
 国立市公民館長 石田 進

第53回東京都公民館研究大会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。昨年度の関プロの東京都大会が盛会に終了し、今年度は3年振りの従来方式の研究大会となりました。全体のテーマ「公民館のこれまでとこれから～成果と方向性～」を掲げ、基調講演と4つの課題別集会用意し、有意義で実りのある研究大会となりました。

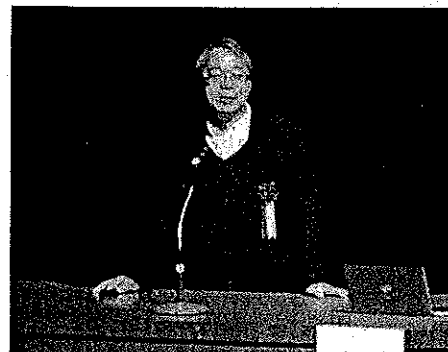
さて、各市の公民館では、これまでも住民の自主的な学びや住民相互の結びつきを支援し、社会教育の中核を担う学びと地域コミュニティの拠点として、広く親しまれてきました。しかしながら、多様化、複雑化した現代の社会状況では、過去に類を見ない課題が次々と噴出しており、住民は、より高度な学習や多角的視点からの学びや新たな繋がりや更なる結びつきを求めているものと感じます。このような中で、一人ひとりの人権を尊重し、人と人との繋がり的重要性を認識し、住民自らが課題を解決できる新しい取り組みを、今改めて公民館から再発信する必要性を強く感じております。

折しも今年度は、公民館の設置運営をよびかけた文部次官通牒「公民館の設置運営について」が全国に通達されてから70年目にあたります。この節目の年に、公民館の原点を再確認することやこれからの公民館のあり方について、議論することは大へん意義のあることと考えております。参加された皆様におかれましては、未来の公民館はどのようにあるべきなのかを見つめ直していただけたかと存じます。

最後に、本大会の事務局をお引き受けいただきました福生市公民館の皆様、課題別集会用意にご尽力いただきました小金井市および小平市、日野市ならびに委員部会の皆様、また、お忙しい中、課題別集会用の助言者および事例報告者をお引き受けいただきました皆様、そして、大会開催にご支援ご協力をいただきました関係者の皆様に、東京都公民館連絡協議会を代表いたしまして、心より感謝を申し上げます。



都公連会長 石田 進 氏



基調講演 朝岡 幸彦 氏

【研究大会事務局を担当して】

第53回東京都公民館研究大会事務局長
福生市公民館長 高橋 邦彦

先日の第53回都公連研究大会には、都内16市区から269名の公民館関係者の皆さまにお集まりいただき、まことにありがとうございました。まずは、大会の開催にあたり約1年間に渡り我々事務局と共にご尽力いただいた都公連役員会、課題別集會を担当していただいた委員部会、小金井市、小平市、日野市の皆さま方に心から感謝いたします。

この大会の事務局長をお引受けした時に、2つの思いを抱きました。

まずは、明日への勇気と元気に結びつくような大会にしたいということでした。そのために、公民館を取巻く厳しい状況を嘆くだけでなく、公民館がこれまで果たしてきたひとづくり・まちづくりの成果を再評価し、その上でこれからの持続可能な地域づくりに求められる公民館の未来を考える大会にしたいと考えておりました。そのため、今大会のテーマを「公民館のこれまでとこれから～成果と方向性～」とさせていただきました。そして、その思いは全体会講師の朝岡教授も共鳴していただき、基調講演では公民館の果たしてきた役割と成果、そして学社一体の取組みから導いた、公民館の今後の求められる姿をお示しいただきました。

2つ目は、どうせ事務局を引受けるなら、それを市民の公民館への認知や公民館の地位向上に結び付ける良いチャンスと考え、15年ぶりに福生市で開かれる本大会をあらゆる機会に市民や利用者、理事者等にアピールし盛り上げを図っていきました。

大会当日全体会では、直前にプレス発表したての福生市のプロモーション動画をご紹介させていただいた後、朝岡先生からご講演をいただきました。先生のお話は、ユネスコの学習権宣言、教育基本法、三多摩テーゼ等のお話から始まり、大人の学び場、まちづくりの拠点を、学社一体という小中高、大学を含めた学校教育と積極的に連携・協力していくという今後の公民館の在

り方をご提案いただくものでした。

午前の全体会で共有の認識を持ち合った上で、午後からは4つの課題別集會に分かれ、明日の公民館づくりのために活発なご議論を進め、明日への勇気と元気をたくわえていただけた事と希望しております。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【第1課題別集會】

「高齢者の学びと講座づくり」

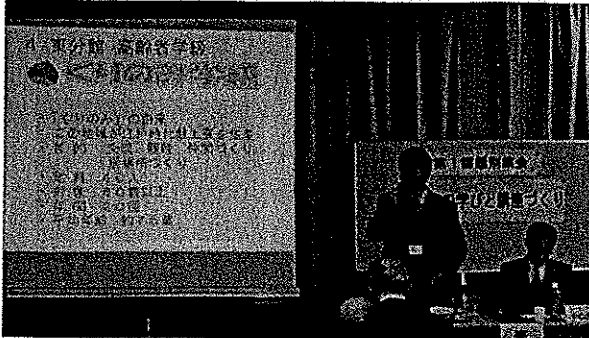
小金井市公民館 筈本 孝文

小金井市は4つある課題別集會のうち、第1課題別集會を担当し、テーマは「高齢者の学びと講座づくり」に設定しました。これは、高齢者が2025年には人口の約30%、2060年には約40%を占めると言われ、今後ますます社会における高齢者の割合は増加すると予想される中で、高齢者の学びや講座づくりについて、現状と課題について事例を交えつつ、新しい高齢者の学びとは何かを考えるきっかけとしたいと思い、今回このようなテーマとしました。集會の冒頭に、高齢者の学びとそれに対する講座づくりという観点から首都大学東京健康福祉学部准教授の飯塚哲子(ひろこ)さんをお招きし、お話を伺いました。高齢者の定義の見直しといった最近の社会情勢解説から始まり、実際に医療現場で体験したことや教育事業を通じて感じたことをお話していただきました。その中でも、能力や才能を発揮し、生きることの喜びを感じることやつながりを作ることの大切さということが挙がりました。



その後、小金井市、調布市、立川市の職員から各市で行っている高齢者の学びについ

ての事例報告をいたしました。97歳の方も元気に講座へ出席される様子や、始まったばかりだが若年層との交流を取り入れるなど今までにないような内容を企画されているといった報告がありました。



当日は50人を越える参加者があり、「他の市がどのような取り組みをしているかとても参考になった」「事例について詳しく説明していただけたので、比較しながらそれぞれの市のユニークな特色を感じることができた」といった感想を多くいただきました。また、「なかなか他自治体の方と知り合う機会がなく、このような場で報告を聞いて有意義だった」という声も耳にしました。

今回、担当市として関わり、この第1課題別集会に多くの方に参加していただきました。集会では、参加者の皆さんが前のめりになるほどしっかり話を聞き、「時間が短くもっと詳しく話をききたい」「参加者どうしでディスカッションをして学びを深めたい」といった要望をいただくなど、高齢者の学びについて関心の高さと熱意が伺え、新たな高齢者の学びについて考えるきっかけとなったと感じました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【第2課題別集会】

「公民館から始める地域づくり」

小平市立鈴木公民館 植野 稔

第2課題別集会では、テーマを「公民館から始める地域づくり」として、事例報告を3件いただき、日本女子大学教授 田中雅文氏を助言者として、お話をいただきました。

平成12年、国分寺市立本多公民館運営審議会は、学校の週5日制に向けて、「子どもの居場所づくり」について審議し、「市民に期待される公民館事業～公民館と青年について」の建議を提出しました。その後の協働事業である「地域会議」や「異世代交流事業」の取り組みについて、国分寺市公民館運営審議会委員 長谷部豊子氏から報告をいただきました。

平成27年3月14日に複合施設としてリニューアルオープンした小平市立仲町公民館・仲町図書館である、愛称「なかまちテラス」では、地域住民や関係機関との協働の取り組みにより「なかまちテラスLINKS」が運営されています。その取り組みについて、小平市立仲町図書館長 上田滋氏から報告をいただきました。

小平市は、公民館を「地域のコミュニティづくりの拠点」とするために、地域のリーダーとの継続的なつながりと、地域住民の意向を適切に反映した公民館の運営を行うための機関として「公民館事業企画委員会」を設置することになりました。その取り組みについて、報告をいたしました。



田中氏の基調講演では、公民館は、その発祥の経緯や主旨から、もともと「地域づくりの学びの拠点である」というお話をいただきました。

公民館は、新しい「つながり」を広げる、地域課題の解決に資する、子ども・若者の成長を支える、他機関・団体とのネットワーク、市民参画による公民館の運営、職員の教育訓練の場、として地域づくりの役割が期待できるとのことでした。

最後に、事例報告を含めたまとめとして、

改めて大事だと思ったことについて、3点あげられました。

<まとめの重要ポイント>

- ① 公民館は、人がつながる「場」を提供する、地域課題を学び考える「場」を提供する。
- ② 利用者には、公民館を担う当事者のように、主体性を持った市民になっていただくという視点で対応する。
- ③ 公民館は、地域の感覚を身に付ける職員研修としての場になる。これも公民館が果たす、地域活性化の役割の一つである。



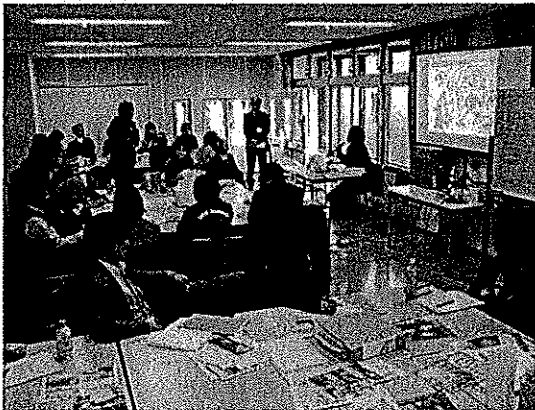
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【第3課題別集会】

“発信力”ってなんだろう？

日野市中央公民館 飯田 一正

第3課題別集会では『公民館からの発信力を考える』と題し、ワークショップを実施しました。助言者として全国公民館連合会の実施する公民館報コンクールで審査員を務められているプランナーの山本恭仁彦氏をお招きしました。



今回のワークショップは全国30館の公民館だよりを例に模擬審査でした。

あらかじめ参加者全体を3つの班に分け、その班内で話し合いをおこない、公民館だよりで『重要だと思う点』を5つほど決めてもらう形式です。さらにその点を各班の評価基準として30館の公民館だよりを見てもらい、最優秀賞1点・優秀賞2点（その他あれば特別賞）を決めてもらいました。

全国各地の公民館だよりを一気に見るといふことに、最初は戸惑う参加者の姿もありましたが、最後の最優秀賞や優秀賞を決める段階では、立ち上がって見比べて検討する班もあり、参加者同士による活発な意見交換が見られました。

振り返りを進める中で、今回の“発信力”という言葉が広義的過ぎたのかなと感じています。それは現代社会において情報発信の方法が多様化していることを意味している事を示しているのだと思います。

ワークショップを進めていく中で、助言者からは「広告ではなく、『狭告(=「広告」の反対)』が一番難しい」という話もありました。今後も“公民館ならではの発信力”の検討は多角的に続けていく必要があるように感じます。

デジタル社会になったと言われますが、情報を取りに来るのは人。最後は“人と人との繋がり”だということを感じさせられた課題別集会でした。

最後に、ご準備・ご協力頂いた福生市の皆さま、ならびにご参加頂いた皆さま誠にありがとうございました。

<ワークショップのまとめとして>

【各班での評価基準】

【1班の挙げた評価基準(6点)】

- ①「紙面は全体的に見やすく配慮されているか」
- ②「見出しに工夫があるか」
- ③「関心を引き付けるビジュアル・デザイン・レイアウトになっているか」
- ④「文章表現に読ませる工夫があるか」
- ⑤「情報は見やすいか」
- ⑥「その他のメディア・デジタルへの引き込みに工夫があるか」

【2班の挙げた評価基準(5点)】

- ①「紙面は全体的に見やすく配慮されているか」
- ②「見出しに工夫はあるか」
- ③「関心を引き付けるビジュアル・デザイン・レイアウトになっているか」
- ④「情報コンテンツは充実しているか」
- ⑤「市民が参加しているという紙面構成がなされているか」

【3班の挙げた評価基準（4点）】

- ①「紙面は全体的に見やすく配慮されているか」
- ②「見出しに工夫はあるか」
- ④「利用者に役立つ情報を提供しているか」
- ⑤「親しみ易くなるような配慮はされているか」



【共通した『重要だと思う点』】

○3つの班での共通事項は「紙面は全体的に見やすく配慮されているか」と「見出しに工夫はあるか」

○2つの班での共通事項は「関心を引き付けるビジュアル・デザイン・レイアウトになっているか」

☆共通点は『目に留まる紙面』！？

【挙がっていた評価の基準・意見として】

・予算、市民の参加度、発行回数、写真の使い方など

⇒ 結果として、3つの班とも違う館の公民館だよりが最優秀賞に！

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【第4課題別集会】

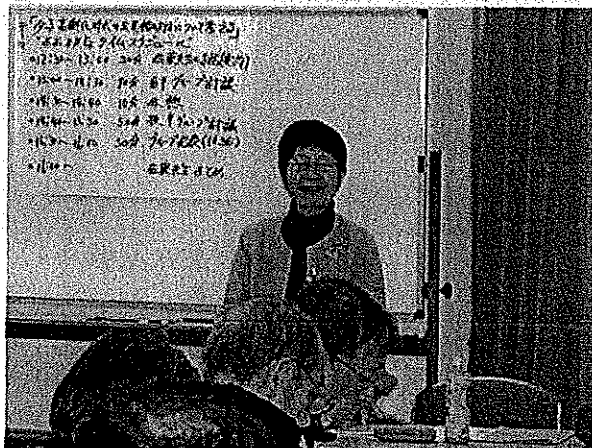
少子高齢化時代の

公民館のあり方について考える

都公連委員部会部会長 川村 光弘

第4課題別集会のテーマは、「少子高齢化時代の公民館のあり方について考える」とし、グループ討議を選択しました。助言者は佐藤一子氏（東京大学名誉教授）にお願いしました。

最初にこのテーマを決めた背景ですが、昨年7月の都公連役員会において、課題別集会のひとつをお受けしたのですが、その段階で様々なテーマを委員部会定例会で議論しました。



例えば「都市型公民館のあり方について」や「地域住民に伝える公民館」、「サークルと公民館のあり方について」など等、様々なテーマが出されましたが、委員全員による多数決の結果、現代社会で大きな課題であります「少子高齢化時代の公民館のあり方について考える」に決定しました。

当日は定員42名のところ満席とさせていただきます。42名を助言者の意向を踏まえて5グループに編成（1グループ8～9名）し、持ち時間は挨拶、休憩を含めて3時間30分で進行することなど、大まかなタイムスケジュールを設定しました。

最初に助言者よりテーマについての論点整理を行い、その後グループ討議を前半、後半の二部制で進め、グループ発表、助言者によるまとめとし、予定どおり終了することができました。

具体的な内容については、少子高齢化社

会の原因をどう捉えるか、公民館の役割について何をキーワードとするのか等、議論の柱としました。模造紙に日頃の思いをメモ書きして貼り付け、それを現状、課題、今後の方向性に仕分け作業を行い、最後にテーマとしての結論を出しました。

主な意見としては、魅力的発信講座、若者の出会いの場作り、新しい形の祭り等を作り出す、老朽設備の改修等、様々な発言がありました。



まとめとして、「持続可能な地域づくりのために、職員と市民が一緒になって課題解決に向けた公民館活動をする」として、各グループの代表による報告が盛会裡に終了しました。

結びに、各市の公民館職員、公運審委員、市民が一堂に会して、今後10年以上続くであろうこの重い課題に対して素直な意見交換がされたことは大変意義深いグループ討議であったと確信しました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

※「東京コンファレンス」の様子（以下2枚）



【「東京コンファレンス」開催報告】

東京都公民館連絡協議会事務局

国立市公民館 井口 啓太郎

去る2月5日・6日に東京大学をメイン会場とした「東京コンファレンス」が、東京を中心に全国から210人を数える参加者を迎え、開催されました。

このイベントは、文部科学省の「学びを通じた地方創生コンファレンス」委託事業として、主催団体が東京大学大学院教育学研究科、実行委員会組織には、東京都下の社会教育関係職員の研修・研究等組織に参加が呼びかけられ、特別区社会教育主事会、東京都社会教育指導員会、東京23区社会教育ネットワーク、たま社会教育ネットワーク、そして私たち東京都公民館連絡協議会が加わって、準備・運営されたはじめての取り組みです。

第1回実行委員会の開催は11月中頃で、準備期間が短いなかではありましたが、

「学びを通じた地方創生」という視点から、東京固有の課題を検討し、これまであまり協同することのなかった23区と多摩地区の人々がつながりながら、新しい社会教育の課題に立ち向かうことを考えていくユニークな取り組みになったように思います。

今回は残念ながら、都公連の研究大会と二週間しか空いていない開催日でしたので、多摩地域の公民館関係者の参加はさほど多くなかったように思いますが、もうすぐ報告書や当日の様子をまとめた記録映像も完成する予定ですので、詳細をぜひご確認ください。関係者からは来年度も実施予定と伺っています。価値ある研修機会と捉えて、都公連としても引き続き関わっていければと思います。





発行：東京都公民館連絡協議会

会長：国立市 石田 進

職員部会長：町田市 今村 耕一

日時：毎月第3水曜日

会場：国分寺市立本多公民館

メンバー：昭島市（清水）・国立市（遠藤）

小金井市（苫本）・国分寺市（櫻井）

小平市（笹川）・狛江市（紺矢）

西東京市（山本）・東大和市（五味）

日野市（飯田）・福生市（井上）

第10回職員部会報

2月15日（水）

1 事務局より

・職員部会ニュース

2・3月号 狛江市、町田市（3月15日締め）

・今後のスケジュール

3月15日 国分寺市立本多公民館

「一年振り返り（仮）」

2 平成28年度東京都公民館研究大会について

・3年ぶりに関プロ後の従来方式の研究大会

・16市区から269名の公民関係者が参加

※詳細は、トリターマ28号参照

3 文部科学省委託事業・学びを通じて地方創生コンファレンス

「東京コンファレンス開催報告」

伊東氏から報告

2月5日、6日に東京大学大学院教育学研究科主催の社会教育関係者が集う研修会「東京コンファレンス」が開催された。オリンピックと社会教育のつながり、防災とコミュニティ形成、少子高齢社会の地域作りなどをテーマに話し合いがおこなわれた。これからの社会教育と学校教育と地域のつながりや、学校と対等の関係を築いていく社会教育の役割などの重要性なども話題に出た。

「公民館・生涯学習センター内での学習という枠を利用者自ら作り出していないだろうか」、「『公民館的』学習の方法に自らが枠をはめていないだろうか」などの刺激的な意見も出ていた。

4 都公連学芸大学連携研修「学び合いを支える実践力を培う」について
都公連と学芸大の連携研修で今年度2回目、次年度も6月から開講する。
講師の一方向的な講義ではなく、参加者同士が自らの実践を語り、後半では、その
取り組みを実践記録として残していく。この日は、昨年度の研修に参加された
2名による実践記録の発表がおこなわれた。

・平成27年度実践記録集より

「26歳、公民館主事デビュー」飯田一正（日野市中央公民館）

「公民館学習～人権講座をとおして～」井上日出夫（福生市公民館松林分館）

5 平成29年度公民館研究大会について

・次年度職員部会日程について

次年度は現状、第3火曜日14-16で予定。4月については第4水曜日を
予定。ただし、4月の都公連の総会後に正式に通知。

6 各市からの報告事項

特に無し

7 次回 3月15日（水）14時～ 会場：国分寺市本多公民館

第11回職員部会報

3月15日（水）

1 事務局より

・職員部会ニュース

2・3月号 狛江市、町田市（3月18日締め）

2 都公連学芸大学連携研修「学び合いを支える実践力を培う」について

・平成28年度実践記録より

彼女たちが頑張れた、その理由 今村耕一（町田市生涯学習センター）

・障がい者青年学級の概要とそれに関わる若年担当者の奮闘ぶり

資料

・「自然塾」の歩みと高齢者の社会参加の取り組み 伊東静一

・「生涯学習センター養成講座」市民の立場からの実践的社会教育の考察

～市民が、市民をサポートする市民を育む講座～ 道林京子（なかの生
涯学習サポーターの会）

3 次年度職員部会日程について

予定では、第3火曜日14-16であったが、その後、その日程では都合がつか
ないとの連絡があり、今年度と同様に第3水曜日14-16で予定。4月の総会

後、最終決定。

4 平成29年度公民館研究大会について

・3月23日に実施の役員会で決定するが、おそらく次年度の研究大会について職員部会として一つの分科会を持つ予定。詳細は、次年度メンバーで協議していくことになるが、研究大会を未経験のメンバーをいることが予想されるため、研究大会に参加した今年度のメンバーでも協議した。

各公民館で行なわれている事業の評価について、学び合う分科会ができないかとの意見があり、次年度の職員部会で参考として提案する予定。

一年間お疲れ様でした！

職員コラム

この「職員コラム」は、毎回職員部会のメンバーが交代で記事を書きます。内容は職員部会の様子や各市公民館の行事、お知らせしたい事業などです。今回は狛江市、町田市が担当です

狛江市

☆第28回いべんと西河原・第32回中央公民館のつどい開催☆

狛江市西河原公民館 紺矢 宣子

今年も公民館最大イベント（公民館交流事業）を開催しました！！

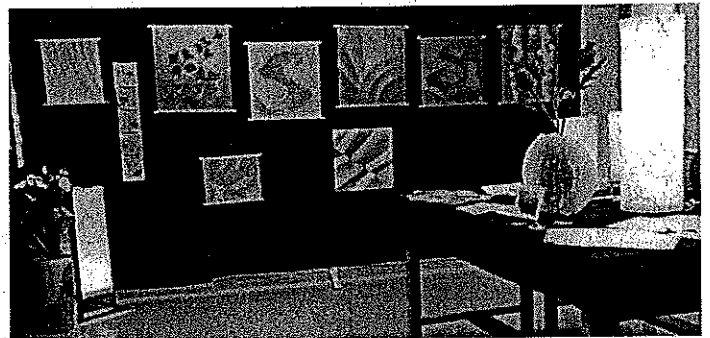
『第28回いべんと西河原』は2月25日（土）・26日（日）と3月4日（土）・5日（日）に西河原公民館で、『第32回中央公民館のつどい』は、3月8日（水）～12日（日）に中央公民館で開催しました。

このイベントは、公民館を利用している団体の皆さんが実行委員会を立ち上げ、企画から準備、運営までを担っています。より良いイベントにしようと、参加団体の皆さんで館内の飾り付けをしたり、開催中は実行委員会役員の方が展示や舞台発表を限なく回ってくださったりと、知恵を出し合い、工夫しながら作り上げています。

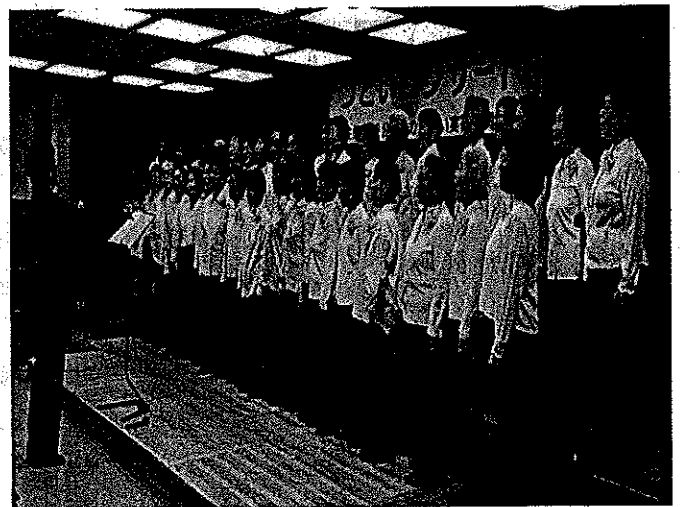
今年も歌に踊りにアンサンブル演奏、絵画や写真や陶芸展など多種多様なプログラムでイベントを盛り上げていました。踊りといっても、キッズダンス、フラダンス、ジャズダンス、フィットネス、スペイン舞踊、フォークダンスなど色々あります。歌や踊り以外にも手品や太鼓、朗読劇にミュージカル、オーケストラと普段なかなか見る機会の少ない発表もあります。展示では、公民館事業の活動紹介や茶道、紙漉き、ロクロ、民謡、折り紙などの体験コーナーやワークショップもありました。

時には迷惑をかけたり、かけられたりしながら一緒になってイベントを作り上げる中で、当日に会場内を見て回っていると、「来てくれたの、ゆっくりしていきなよ」「この作品すごいでしょ」と言ってもらったり、舞台袖で「男声コーラスかっこいいですね」とか「(艶やかな)衣装似合ってた素敵ですね」と声をかけると「そうですね」と迷わずかえってきたりします。それもとびっきりの笑顔で！このイベントを通して、利用者の皆さんとの距離が縮まったように思います。毎年参加団体が増えるにつれ、プログラム編成等苦慮することもあります。利用者の皆さんの輝く笑顔が見られるように工夫をしていきたいと思っています。

『いべんと西河原』



『中央公民館のつどい』



「職員部会、お疲れさまでした、そして将棋講座のお話し」

町田市生涯学習センター 今村 耕一

8月は夏休みということでお休みし、3月15日をもって、今年度の全11回の職員部会が無事、終了いたしました。部会メンバーの皆さま、並びに各公民館職員の皆さま、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました！

さて、今年度の職員部会は会場に国分寺市立本多公民館をお借りしましたが、5月から12月までは関プロ大会の配布資料に掲載された東京提案を頼りに、各公民館にお伺いをし、講座の取り組みについて学んできました。話の内容もさることながら、駅前にあたり、住宅街にあたり、新しい複合型の施設だったり、建物を知るだけでも多くの発見がありました。そして、その立地条件が講座の取り組みについて大きな関わりがあることも知りました。

1月に入ってからは、本多公民館に戻り、三多摩の先輩職員の足跡について学んだり、公民館職員の実践記録について学び意見交換の糸口にしたりと、社会教育について様々な角度から見識を深めました。と云って、今回のメンバーは私も含め経験の浅い方が多かったので、せっかく素晴らしい取り組みを拝聴、拝読しても、それが茫洋としている社会教育という括りの中で、どのような意味を持つかまでは窺い知ることができません。そこを毎回出席いただいた伊東顧問が丁寧に解説してくださり、私たちは、各公民館の取り組みと共にその立ち位置についても同時に学ぶことができました。講師となっていたいただきました方々、並びに伊東顧問、ありがとうございました！

さて、話を町田市に移します。

来たる3月25日に親子で取り組む、初めての「どうぶつしょうぎ」、26日に親子で取り組む、初めての「将棋」と二つの講座をおこないます。企画しながらも、将棋という、少し地味？なテーマに定員30名が果たして埋まるのかどうか不安ではありましたが、結果、申し込み多数で、枠を広げることに。将棋は、相手の手をじっと待たなくてははいけません。その、「待つ」という行為が、現代ではなかなか得にくいことなのだとか。将棋を通じて策を練る、相手の表情を読むなど言葉を介在しない、駒と駒の「会話」に取り組む子どもたちの表情を目の当たりにし、かつ今年度、職員部会で学んできたことを振り返りながら、公民館職員五年目に向けて気持ちを新たにできればと思っています。

[The text in this block is extremely faint and illegible. It appears to be a multi-paragraph document, possibly a letter or a report, but the content cannot be discerned.]